

## ESD 日米教員交流プログラム（日本人教員米国派遣）に参加して

平成22年4月24日から5月7日（14日間）、アメリカ合衆国（ワシントン、ミネアポリス、サンフランシスコ）にて学校視察、ESD 講義、米国教員とのグループワークショップ等を中心に環境、人権、異文化理解、エネルギー等の教育実践研修に参加致しました。

講義：日本の教員に期待すること（文部科学省大臣官房国際課人物交流）

米国教員制度について（米国教育省長官）

米国でのESDの現状（ウィスコンシン大学助教授）

アメリカ文化と社会へのオリエンテーション（米国国務省職員）

ESD パートナーシップ（K-12、教員教育チーム担当）

日米教員制度の違い（シェパード・アンド・アソシエーツ）

日本の教育について（拓殖大学名誉教授）

地域社会を基盤とする持続発展教育（ルイス&クラークカレッジ教授）

環境教育と人権教育（ポートランド州立大学教授）

日本の教員へ（在サンフランシスコ日本国総領事 長嶺 安政 様）

教員のためのESD教育（ルイス&クラークカレッジ教授）

心の教育について（文部科学省教育課程企画室）

教員としての自覚について（米国国務長官）

学校視察：シドウェル・フレンズ・スクール

CHESPAX

ガーロー・エンバイラメンタル・マグネット・スクール

スクール・オブ・エンバイラメンタル・スタディーズ

ダウリング・アーバン・エンバイラメンタル・スクール

コモン・グラウンド・ハイスクール

ダッジ・ネチャー・センター

ミネソタ科学博物館、ミネソタ動物園

スワード・コープ、コミュニティ・ガーデン

パネルディスカッション、質疑応答、米国教員とのグループワーク、米国教員との共同作業、日米教員模擬授業、ホームステイ等。

米国教育の感想

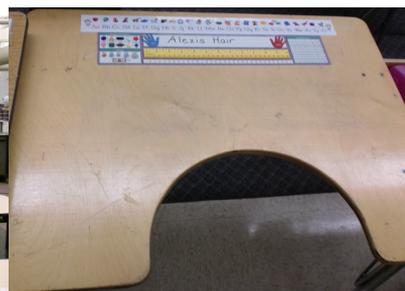
- ・ 「知識は行動を変える」の概念が定着している。
- ・ NGOに関与してもらい学校教育に取り入れている。NGOの力が大きく重要である。
- ・ 先生が教室で授業をコントロールしている。
- ・ 教員の養成はもとより、ナチュラリスト等の専門家が教員のパートナーとして補ってけている。
- ・ バリアフリーがどこもしっかりと設定されている。
- ・ コミュニティー（生徒がやっていることを地域に説明すること）が確立している。
- ・ アメリカは知識に重点を置いてきた。しかし、昨今は新しいカリキュラムを作り、行動に重点をおく取組に移行している現状がある。



校舎屋上緑化



高校授業風景



車椅子対応机（全員）